

急性虫垂炎

外科部長 大枝 守

一般的には盲腸と呼ばれている病気で正式には急性虫垂炎といえます。右下腹部に位置する大腸の入り口付近にぶら下がっているヒモ状の虫垂と呼ばれる部位に細菌感染がおきることが原因です。子供から高齢者まで幅広い年齢層に発症し、男女差はみられません。

【症状】典型的には最初みぞおち（上腹部）に痛みがでて、時間とともに痛みが右下腹部へと移動します。その他の主な症状としては吐気、発熱などがあります。虫垂炎がひどくなると虫垂が破れ、なかに貯まっている細菌が腹腔内に流れだし腹膜炎をおこし重篤な状態となることがあります。

【診断】虫垂がある右下腹部を押さえると痛みを伴います。血液検査では細菌感染を反映して炎症反応と呼ばれる白血球・CRPが増加することがあります。腹部超音波は体への負担が少ない反面、検査するものの技量・患者さんの体型・虫垂の位置などによって正確な診断に至らないことがあります。CTは多少被爆するものの体型に影響されにくく、色々な角度から見ることでできるなどのメリットが多く、診断率も高く有用な検査です。

【治療】保存的治療（いわゆる抗生剤で散らす）と手術療法の効果もよく、保存的治療での治癒率は上昇して有用な治療ですが、効果がなければ虫垂炎が悪化する場合がある、治療しても再発する可能性があるなどのデメリットもあります。手術では虫垂を根元で切って取り出します。今までは右下腹を5〜10cm切る開腹術が一般的でしたが、最近では腹腔鏡を使用する手術も増えてきております。腹腔鏡は臍下を2〜3cm、左側腹部・下部を約1cm切っただけで、傷口が小さい、回復が早い、ひどい虫垂炎でも同じ傷で手術が可能などのメリットがあります。ただし症例によっては施行できないことがあります。急性虫垂炎は緊急手術が必要というイメージがありますが、

緊急手術が絶対必要なのは虫垂が破れ、細菌が腹腔内に広がり腹膜炎をおこしている場合です。それ以外の場合は痛みの程度、糞石（便が固まって石のようになったもの）の有無、繰り返す場合などケースバイケースで手術を行うか保存的治療を行うかの判断をします。

急性虫垂炎は簡単に治療する病気というイメージがありますが、病状がすすむ（特に腹膜炎）と手術も困難になり、また術後の経過も長くなります。急性虫垂炎が疑われる症状があれば早めに病院を受診してください。

急性虫垂炎は緊急手術が必要というイメージがありますが、

